

(別紙)

成果の説明書

(氏名) 西野寿章	(学部) 地域政策学部
1 重要事項	
【研究成果】	
(1)図書	
1) 西野寿章(2018)「中山間地域」, 経済地理学会編『キーワードで読む経済地理学』, 原書房, pp.259-270.	
2) Toshiaki Nishino(2018): The History of Electric Enterprises and Power Supply Development in Tokyo Since the Meiji Era. <i>Tokyo as a Global City. International Perspectives in Geography. AJL Library</i> 8. Edit by Toshio Kikuchi and Toshihiko Sugai. 267-285. Springer.	
(2)論文	
1) 西野寿章(2018)「山村の内発力の地域振興への応用の検討—共有林の地域的機能と地域づくり—」, 山林(大日本山林会)1607号, pp.2-8.	
2) 西野寿章(2018)「戦前の山村の電気事業計画における財政構造と住民負担—岐阜県旧宮村と長野県旧三穂村を事例として—」, 産業研究(高崎経済大学地域科学研究所)54-1, pp.1-26.	
(3)研究ノート	
1) 西野寿章(2019)「戦前の農村における電気利用組合の設立と経営—長野県旧竜丘村を事例として—」, 地域政策研究(高崎経済大学地域政策学会)21-4, pp.83-96.	
2) 西野寿章(2019)「戦後の縁辺地域における住民と協同組合による電気供給とその顛末(1)—北海道雄武枝幸町電気組合を事例として—」, 産業研究(高崎経済大学地域科学研究所)54-2, pp.72-81.	
(4)書評	
1) 西野寿章(2018)『地域経済政策学入門』(山川充夫編著, 八朔社), 帝京大地域活性化センター年報, 第2巻, pp.26-30.	
(5)研究発表	
1) 西野寿章「高齢化山村の変化と地域づくり」, 大阪大学文学研究科人文地理学教室・島根県立隠岐高等学校 研究成果合同発表会(2018.10.16, 於:大阪大学会館).	
2) 西野寿章「山村の内発力に学ぶ—共有林の地域的機能と地域政策—」, 人文地理学会大会・特別研究発表(2018.11.24, 於:奈良大学)	
【学外研究費獲得状況】	
1) 科学研究費基盤研究(A)「中山間地域における林業合理化・森林管理・住民生活の為のマネジメント=モデルの構築」(平成 26~30 年度, 研究代表者・大阪大学文学研究科・堤研二教授).	
2) 科学研究費基盤研究(B)「集团的林野経営の地域的機能分析と地域振興政策への応用可能性に関する研究」(平成 30~32 年度, 研究代表者・明治大学商学部・中川秀一教授).	
3) 科学研究費基盤研究(B)「現代山村の存立構造とレジリエンス」(平成 30~33 年度, 研究代表者・奈良大学文学部・岡橋秀典教授).	
【教育成果】	
【学部講義】 担当講義の学生評価は, 農村地理学 91.5 点, 観光地理学 87.9 点, 地域振興論 90.3 点であった(地域政策学入門は 3 人の教員による授業のため除外). いずれも学部, 大学全体の平均点を上回っているが, 引き続き受講者が問題意識を持って, 地域の諸問題に興味関心を向け	

てくれる参加型授業となるよう考えたい。

【学部演習】 担当している演習Ⅰ(3年生)では、毎年、フィールドを定めて地域調査研究を行い、調査報告書を刊行している。2018年度は、日本一高齢化が進んでいる群馬県南牧村A地区で現地調査を実施し、2019年3月に『山間集落の変容と地域的課題への挑戦—群馬県南牧村A地区を事例として—』、西野研究室刊、124p. を刊行した。演習Ⅱ(4年生)は、それぞれに卒業論文をまとめて卒業した。

【大学院】 修士課程演習生が在籍し、研究指導を行った。

【社会的活動】 平成30年度に学外で担当した公表可能な委員は次の通りである。

【学会関係】 人文地理学会・代議員、経済地理学会・評議員、群馬地理学会・理事。

【行政関係】 1)群馬県ぐんま緑の県民税評価検証委員会委員長、2)群馬県公共事業再評価委員会委員、3)群馬県森林・緑整備基金評議員、4)群馬県埋蔵文化財調査事業団評議員、5)高崎市市有林管理委員会副委員長、6)群馬県嬭恋村総合戦略評価委員会座長、7)群馬県高山村まち・ひと・しごと創成推進委員会委員長、8)群馬県教育文化事業団・ぐんま伝承文化継承委員会委員ほか。

2 その他の事項

- ・4年目の地域科学研究所長として、運営会議メンバー、多くの所員の先生方のお力を借りながら、地域貢献事業の充実に努めた。2015年度に設置された研究所は、地域貢献の窓口の1つとして、ほぼ事業内容が固まった感がする。それぞれの事業は市民、県民から好評を得ているが、常に市民、県民のニーズを注視しながら、さらなる発展につなげたい。

3 次年度以降の計画・抱負

【研究】

- ・2019年度は、修士論文以降、進めてきた日本の電気事業史研究をまとめる予定である。
- ・分担者として参加している科研費研究では、山村の持続的な発展の方策を継続して研究するとともに、2019年度から始まる「新しい森林管理システム」制度と地域振興の関係について研究を進めたい。

【教育】

- ・2019年度の演習Ⅰ地域調査研究は離島(香川県土庄町豊島)にて実施する計画である。豊島の住民の方々には、かつて産業廃棄物の不法投棄問題を香川県と対立しながら、長年かけて解決に導いた歴史がある。しかし、現状は高齢化が進んで、集落の限界化が進んでいる。その豊島の持続可能性を探りたい。
- ・2019年度より大学院博士後期課程の演習生を担当する。博士論文にふさわしい内容となるよう、適切な指導をしていきたい。博士前期課程の演習生についても同様に、修士論文の作成指導を行う。

【地域貢献】

- ・地域科学研究所の諸事業の推進を運営会議メンバー、所員、事務局と共に進めていきたい。
- ・今年度は、高崎市民がその歴史を掘り起こしてきた長野堰の地域的役割を市民と大学研究所の共同研究としてまとめ、高崎市の歴史に新たに加えたい。
- ・地域科学研究所では、高崎市の中心市街地研究に着手する。歴史ある高崎の中心市街地を体系的に研究し、高崎の未来につなげたい。